

○14番 杉本龍也君

中京中学校3年、杉本龍也です。僕はiPadのフィルターについて質問します。

最近、授業などでiPadを使用することが増えていますが、資料や語句を検索する際にサイトを閲覧できないことがあり、思うように調べることができないことがあります。

そこで質問ですが、自分が経験したように、iPadで何かを調べようとしたときに、閲覧できないサイトがあるといった報告は、他の学校でもありますか。

○後半議長 遠藤優奈君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 長尾明美君

杉本議員の質問にお答えしたいと思います。

杉本議員が中京中学校に入学した令和3年度から、全国の小・中学校で、一人一人の児童・生徒がタブレットを使った学習を行うことができる環境が整いました。杉本議員も、自分用のタブレットをもらったときは、その当時、とても嬉しかったのではないのでしょうか。その令和3年度をスタートとして、市内の小・中学校でも、授業でタブレットを活用する場面が徐々に増え、今では、それが当たり前のようになっています。

杉本議員も既に経験しているように、最近の学習活動の中では、タブレットを上手に活用して、先生から指示されたことや自分が分からないことをインターネットで調べて、情報を収集・分析して解決していく、そういったような探求的な学びの場面が多くなっているかと思います。そして、そのような活用が増えてくるとともに、杉本議員と同様に、調べたいけど見れないサイトがある、といった内容については、決して多くはないですが、他の学校からもそういった意見はございます。以上です。

○後半議長 遠藤優奈君

杉本議員。

○14番 杉本龍也君

貴重なご意見、ありがとうございます。

それでは、他の学校でもそのような報告があるということであれば、市全体として、フィルターの規制を緩和することにより、生徒の学習意欲の向上につながると思います。このことについて、市は、どのようにお考えでしょうか。

○後半議長 遠藤優奈君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 長尾明美君

杉本議員の質問にお答えいたします。

やはり教育委員会といたしましては、探求的な学びをはじめ、様々な学習活動の中で、タブレットを積極的に活用してほしいと思っています。しかし、積極的に使ってもらいたいという一方で、子どもたちがタブレットを使っているときに、知らない間に、教育上不適切なサイトや危険なサイトにアクセスしたり、残念ながら不適切な使用によってトラブルに巻き込まれたりするようなことも考えられますので、対策をしておく必要があると考えております。

教育委員会や学校としましては、タブレットを使った学習でも、インターネットの接続の際には、フィルタリングによって不適切なサイトなどへのアクセスを制限することで、子どもたちが安全にタブレットを使えるようにしています。

ただ、このフィルタリングの設定についても、どうしても限界がありまして、設定の状況によっては、学習に必要なサイトであっても見れなくなる場面がございます。杉本議員が言われるように、規制を緩和することも可能ではありますが、そうすれば、先ほど言ったような危険性が少し高まってしまうのではないかと、というふうに危惧をしているところです。

実際に、現状のフィルタリングの機能を設定しているんですけども、学習に関係のないサイトを閲覧していたというような報告があるのも事実であります。そのため、教育委員会としては、一定のフィルタリングの機能は必要なものだと考えているところでございます。

また、議員が言われたようにタブレットの使用、特にインターネットの接続に関しての使用については、子どもたち一人一人が、情報モラルの意識をしっかりと持つことが重要だと思っています。教育委員会は、いま学校と協力しながら、この情報モラル教育について、引き続き取り組んでいきたいと考えています。ぜひ議員も、この情報モラルの意識を向上させていくためにはどうすればいいのかということも友達同士で話し合ってみていただきたいと思います。

ただ、教育委員会としては、フィルタリングによる規制を緩和させるということについては、子どもたちの情報モラルの教育と併せて考えていきたいと思えます。以上です。

○後半議長 遠藤優奈君

市長。

○市長 工藤政宏君

杉本議員のご質問にお答えいたします。

まず、こういった問題というのは、やはり以前からも起こっておりまして、答弁としましては、いま教育長がお答えしたとおりであるんですけども、いま教育長が申し上げた中で、やはり情報モラルといった部分のお話がありました。情

報リテラシーといった言葉もありますけれども、この部分を、情報に対する意識ですね、これをいかにして上げていくかというところが、やはり大変重要だと思っています。

今どちらかというと、やってはいけないとか、こういうことに気を付けましょうというお話が結構中心になりがちなんですよね。これは大人の社会、そしてまた公立学校とかになると、やはりまず、あってはいけないことをできるだけ起こさないようにというふうにいきがちなんです。

じゃあどうすればいいのかということで、一つですね、これはぜひ杉本議員とも今後考えていけたら、同世代の皆さんと一緒に考えていけたらと思うんですけども、もっと前向きな情報リテラシーと言いますか、例えばチャットGPTってご存じですか。

(杉本君「存じています」の声あり)

使ったことはありますか。

(杉本君「あります」の声あり)

すごいですね。新しい技術が出てきたときに、これを敬遠するんじゃなくて、いかにして使いこなしていくか、そこにはモラルも必要ですよ。それからやはりまず新しいものをどう役立てようかという非常に好奇心と言いますか、そういったところもとても重要だと思うんです。この好奇心の部分もしっかりと活用、使っていきながら、活かしていきながら情報モラルをあげていくという方法、あると思うんですよ。

なので、ぜひですねこれは特に一番理想なのは、今こういったフィルタリングに対して問題意識を持っている児童・生徒さんが中心になって、だからやはり本当に対話の場って必要だなって、きょうを通じてずっと思っていることなんですけれども、例えばチャットGPT、皆で学んでみようよとか、じゃあ学ぶときに、どういったメリットがあってどういったデメリットがあるのかということ学んでいく。これって、何か未来に向かっていく作業じゃないですか。こういったかたちで皆の情報モラル、情報リテラシーを上げていくという活動がこれから必要なのかなというふうに個人的に思っていますので、今いただいたご意見を踏まえながら、いま私が申し上げたことなどもしっかりと私も責任を持って、市民参加型、参画型のかたちで、この情報モラルをあげていく作業をやりたいと思っています。以上です。

○後半議長 遠藤優奈君

杉本議員。

○14番 杉本龍也君

以上で質問を終わります。丁寧かつ前向きな回答を、ありがとうございました。